

福井工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	0101		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	加藤晴康他著:『世界史A』(東京書籍)					
担当教員	廣重 準一郎					
到達目標						
(1) 世界史上の画期的出来事背景・展開過程・影響について理解し、大筋で説明ができること。 (2) 事象の認識にあたって、通説にとらわれたり自説に拘泥することなく、柔軟で多面的なアプローチができること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史上の画期的出来事背景・展開過程・影響について十分に理解し、大筋での説明が十分にできる。		世界史上の画期的出来事背景・展開過程・影響についてある程度理解し、大筋での説明がある程度できる。		世界史上の画期的出来事背景・展開過程・影響についてほとんど理解できず、大筋での説明もほとんどできない。	
評価項目2	事象の認識にあたって、通説にとらわれたり自説に拘泥することなく、柔軟で多面的なアプローチをすることが十分にできる		事象の認識にあたって、通説にとらわれたり自説に拘泥することなく、柔軟で多面的なアプローチをすることがある程度できる。		事象の認識にあたって、通説にとらわれたり自説に拘泥することなく、柔軟で多面的なアプローチをすることがほとんどできない。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 RA1						
教育方法等						
概要	現代世界の歴史的形成過程の理解・認識を通じて、われわれが直面する諸問題の本質を洞察し、未来を展望しうる能力の養成を目指す。					
授業の進め方・方法	教科書の項目立てに基本的に従いながら、近代初頭から第二次大戦後までの世界の歴史を講義する。					
注意点	初回の授業で伝えた「受講に際しての注意事項」を厳守すること。 成績評価は4回の定期試験の結果のみで行う。なお、各定期試験の評価割合はすべて25%とする。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	近代への序曲		ルネサンス・宗教改革・大航海時代について理解できる。	
		2週	主権国家体制と世界商業		近代初頭のヨーロッパ諸国・三十年戦争について理解できる。	
		3週	絶対王政の展開		英仏の絶対王制・イギリス革命について理解できる。	
		4週	革命の時代の開幕		啓蒙思想の展開・変革への動きについて理解できる。	
		5週	アメリカ独立革命		独立戦争と独立宣言・合衆国憲法の制定について理解できる。	
		6週	フランス革命		革命の勃発からテルミドル反動までについて理解できる。	
		7週	ナポレオン戦争		ブリュメール18日のクーデタからワーテルローへについて理解できる。	
	2ndQ	8週	前期中間試験			
		9週	産業革命		囲い込み・技術革新について理解できる。	
		10週	工業の発展と社会		工場労働の実情・社会問題や労働問題の発生について理解できる。	
		11週	ヨーロッパの動乱の波及		ラテンアメリカの独立・アジアとアフリカの植民地化について理解できる。	
		12週	ウィーン体制と1848年革命		ウィーン会議・1848年革命の勃発と挫折について理解できる。	
		13週	国民国家への道		イギリスの繁栄とフランスの政変・アメリカの発展と南北戦争について理解できる。	
		14週	ナショナリズムとロシア		イタリア・ドイツの統一/ロシアと東方問題について理解できる。	
		15週	清帝国と周縁地域		朝貢体制と政策転換について理解できる。	
後期	3rdQ	1週	清帝国における反乱と改革		アヘン戦争・太平天国について理解できる。	
		2週	日本・琉球・朝鮮の動向		日朝関係・日清戦争について理解できる。	
		3週	アジア・アフリカの変容		東南アジアの情勢・イギリスのインド支配について理解できる。	
		4週	帝国主義と世界分割		帝国主義政策の展開・西欧新帝国の形成と米露について理解できる。	
		5週	アジア・アフリカの抵抗運動		日露戦争・辛亥革命について理解できる。	
		6週	第一次大戦		大戦前夜のヨーロッパ・戦争の勃発と性格について理解できる。	
		7週	戦争から革命へ		ロシア革命・ドイツ革命について理解できる。	
		8週	後期中間試験			

	4thQ	9週	戦後秩序の形成	ヴェルサイユ体制の成立・新勢力の登場について理解できる。
		10週	世界恐慌とファシズム	恐慌の発生・ファシズムの抬頭について理解できる。
		11週	第二次大戦	大戦の勃発・太平洋戦争について理解できる。
		12週	戦争の終結と戦後社会の胎動	イタリアとドイツの降伏・ポツダム宣言と日本について理解できる。
		13週	連合国の戦後処理と世界	冷戦の開始・分断国家の誕生について理解できる。
		14週	国際連合と東西対立	国際連合の成立・東西陣営の形成について理解できる。
		15週	大戦後の東アジア	中華人民共和国の成立・朝鮮戦争について理解できる。
		16週	後期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0